

Techno Online

このコラムの主題である技術(テクノロジー)と科学(サイエンス)は本来異なる概念だ。近代文明では科学と技術がお互いに補完して発展してきたため、両者が同等に扱われるようになった。科学と技術を同時に輸入した日本では「科学技術」という言葉が一般的に使われている。しかし、ヨーロッパを中心に、いまだに科学と技術は同等に認識されていないように思われる。

東京電力福島第1原子力発電所事故の後で、「安全安心」が科学技術の解決すべき課題として注目されている。安全と安心は本来全く異なる考え方だと思う。

草原で草を食べるシマウマは、遠くにライオンがいても逃げない。しかし、自分の安全を脅かすライオンのしぐさや行動に常に注意を払っている。ライオンは危険ではあるが、遠くにいるときは安心して食事ができるのだ。

海外出張の帰り、私の乗った飛行機で2つあるエンジンの1つが離陸時に停止した。「エンジントラブルのため燃料を海上に捨てて空港に戻る」というパイロットからのアナウンスがあった。エンジンが1つ止まったことは告げ

安心して危険と向き合う 十分な情報提供 重要に

られなかった。客室乗務員にエンジン停止を確認したら、急に不安そうな表情を浮かべ「はい」と答えた。それを聞いた隣の乗客が「本当ですか」と不安そうだった。着陸の時は緊急車両が整列して我々を待っていた。空港はこのとき閉鎖されていたのだろう。

こんな状態でも、私は至って安心していった。なぜなら旅客機は離陸時にエンジンが1つ止まった後も離陸できると、パイロットはエンジンが止まったときの飛行や着陸は十分訓練していることを知っていたからだ。エンジンが1つ止まった飛行機は安全ではない。しかし十分な情報を持っていることによって安心してることができたのだ。

我々は究極の安全と安心を原発に求めたために虚構の安全に惑わされ、原発事故で住民と日本を危険な状態に導いた。放射能は危険であるが情報が十分に開示・伝達されないうちに、いたずらに不安になってしまふ。解明されない事実まで含めた情報が住民に十分提供されれば、もっと安心して危険と向き合うことができるのではないだろうか。

(東北大学流体科学研究所 教授 円山重直)